NEW

SR Saclar®

Esthetic composite tooth

SR サクラール

健保適用

保険にも審美を追求できる時代に

ivoclar vivadent

SR サクラール

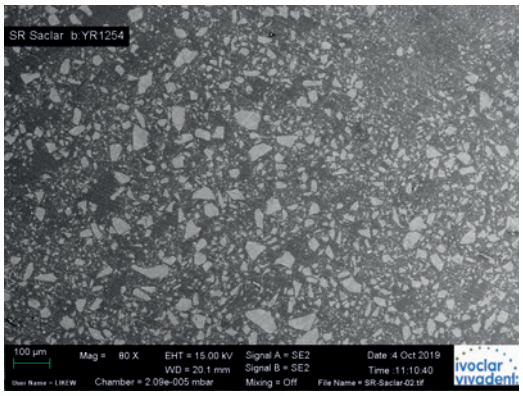
SR サクラールは、高い品質基準でナチュラルな形態・表面性状を再現しました。また、3種類のシェードがあり、日本人のために開発された人工歯です。
健康保険制度の基準をクリアする硬度、そしてIvoclar Vivadent社の人工歯開発の歴史による審美性を兼ね備えています。

クロスリンク

切縁部には、新開発の高硬度を特長とするIOP（Inorganic Optimized Polymer）を23%以上使用しています。

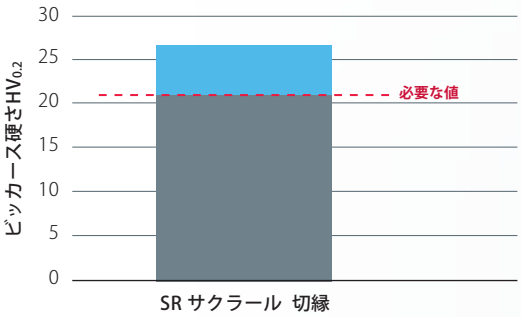
品質基準

JIS T 6506では、硬質レジン歯のエナメル部の硬度は21$HV_{0.2}$以上を要求されますが、SR サクラールの前歯唇側・切縁部および臼歯の頬側・咬合面は、その基準を超える25$HV_{0.2}$以上の硬度を実現しました。



IOP材料のビッカース硬さ$HV_{0.2}$

JIS Z 2244*により、ビッカース硬さを測定



Source: K. Hagenbuch, SR Saclar Verification Report, Test Report, Ivoclar Vivadent, 2019

＊JIS Z 2244はビッカース硬さの試験方法

23%*

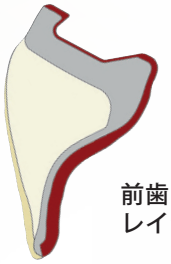
無機質フィラー含有量

*エナメル層部分の含有量

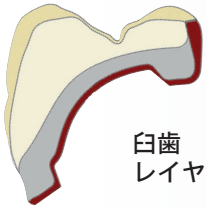
形態から生まれる審美性

前歯と臼歯共に、4層レイヤリングで構築されています。
また、6前歯の形態は、それぞれが異なるレイヤリング構造で構成されています。それぞれに異なる表面性状を組み合わせることで、ナチュラルな審美性を得られます。

機能性を考慮し、唇側・切縁部、頬側・咬合面には、IOP材料を採用しています。
また、デンチン、歯頸部および舌側部は実績のある、自由診療向け人工歯と同様の構造形式であるDCLアクリル（二重架橋結合）が採用されています。
その結果、審美性と機能的特性を兼ね備えた人工歯が完成しました。



前歯
レイヤリング構造



臼歯
レイヤリング構造

製品内容

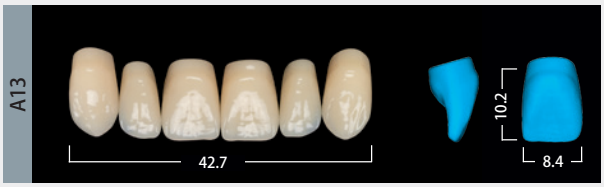
シェード A2、A3、A3.5 – 各形態×10 プレート	
• 上顎前歯　6形態 • 下顎前歯　3形態	
• 上顎臼歯　3形態 • 下顎臼歯　3形態	

形態選択

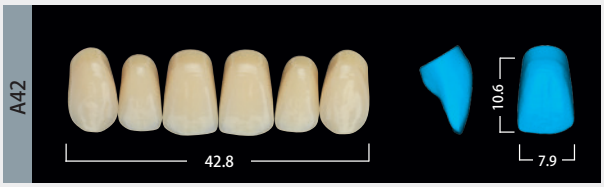
SR サクラール
前歯

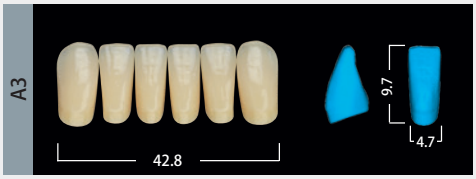
Small

SOFT



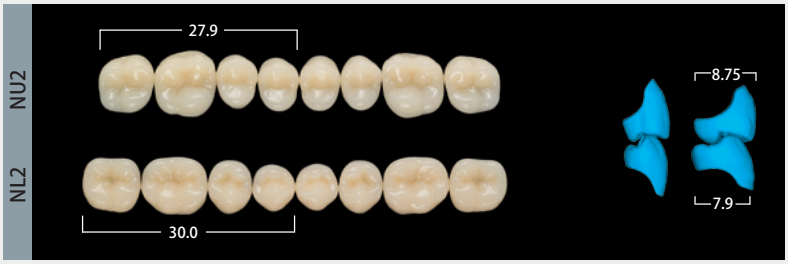
BOLD





SR サクラールTyp
臼歯

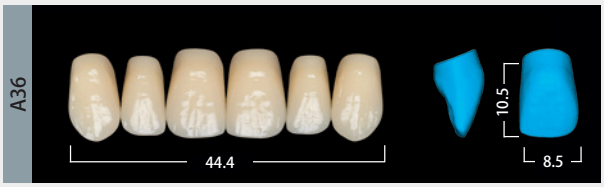
Small

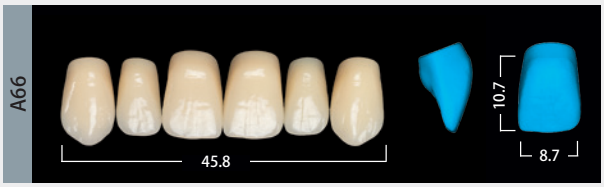


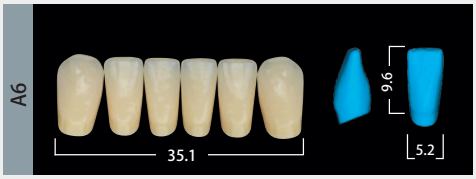
Medium

Large

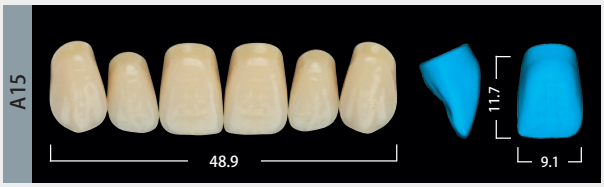
Medium

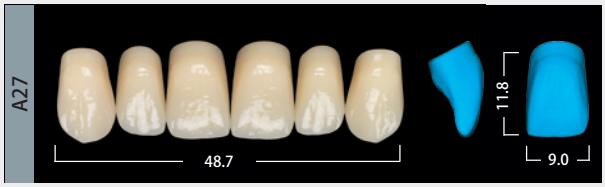


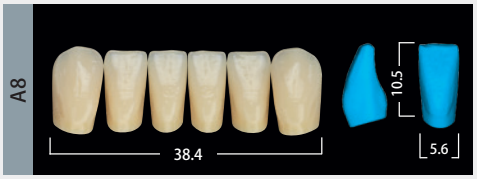




Large







Combination table　組み合わせ表

		前歯 SR サクラール		臼歯 SR サクラール　Typ
		上顎	下顎	上顎 / 下顎
Small	SOFT	A13	A3	NU2 / NL2
	BOLD	A42	A3	NU2 / NL2
Medium	SOFT	A36	A6	NU3 / NL3
	BOLD	A66	A6	NU3 / NL3
Large	SOFT	A15	A8	NU5 / NL5
	BOLD	A27	A8	NU5 / NL5

この組み合わせ表は日本人の標準的なガイドラインとして推奨しています。
解剖学的条件が特殊な場合、適応しない可能性があります。

前歯のセットアップ

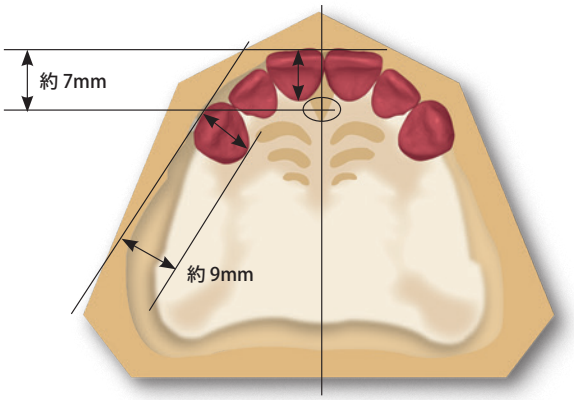
通常の咬合状況では、中切歯の唇側面を切歯乳頭中央から約7mm前方に排列します。

口蓋縫線は、上顎前歯の排列時において、左右対称性を決定する際の基準になります。

上顎中切歯の切縁は、咬合高径1/2から2mm下顎前歯方向へ垂直被蓋する位置に排列します。

上顎歯列弓において、犬歯唇側面の排列基準は、第一横口蓋皺襞の先端付近から、約9mmの位置になります。

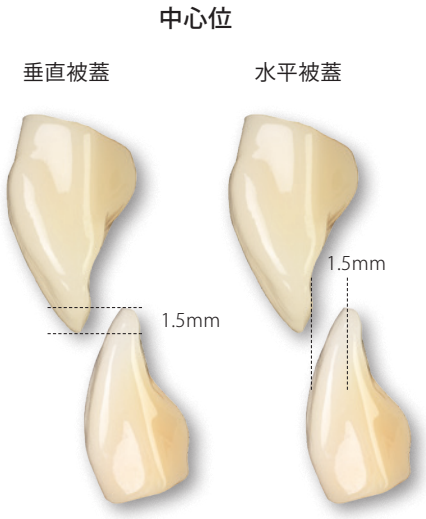
犬歯を排列した後、側切歯を中切歯と犬歯の間に排列調整します。



下顎前歯の排列は、各ケースの咬合関係の状況に応じて、垂直的・矢状的な位置を考慮しながら、下顎犬歯から開始します。

各ケースの状況にもよりますが、側方運動、前後運動において、積極的な前歯誘導は推奨しません。

- 一般的に、前歯は垂直的・水平的に1.5mm被蓋させます。
- 前歯被蓋は、機能運動時に接触しないように排列設計します。
- 義歯製作では、クラウンやブリッジの歯冠修復時で付与するアンテリアガイダンスは推奨されておりません。
- 機能運動時の前歯接触は、機能不全（パラファンクション）を誘発させる可能性があります。



Processing instructions 製作・構造説明

シェード：
- 3 A–D シェード（A2、A3、A3.5）

シェード選択：
シェードの決定は、Ivoclar VivadentによるA–Dシェードガイドまたはその他のA–Dシェードガイドを使用して選択します。シェード選択は、昼光灯（色温度5,500K）または、太陽光（できれば北方面の光）の下で行ってください。

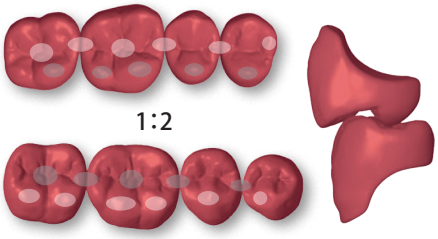
最低限の厚み：
人工歯の破折を防ぎ、色調効果を維持するためには、最低限の厚みを確保してください。

- **前歯**：唇側：最低2.5mm
- **臼歯**：中心窩：最低2.0mm
  咬頭：最低2.5mm
  歯頸部：最低2.5mm

重要な注意事項：
可撤性義歯補綴装置が、長期間にわたって機能させるために以下の前提条件が必要です。
満たすべき条件：
- 義歯は、歯科医師と歯科技工士が緊密な情報共有を行い、設計・製作する必要があります。

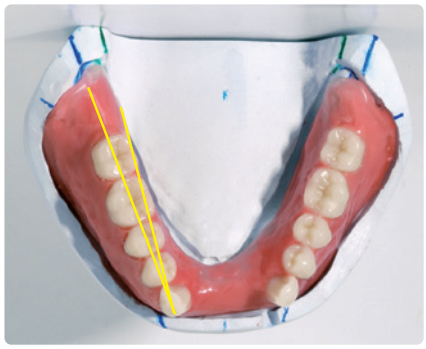
臼歯部の排列

SR サクラール Typ形態は、Dr.Strack氏が提唱する咬合形式に基づいてデザインされています。1歯対2歯咬合のノーマルバイトのケースにおいて使用します。その結果、中心位咬合では、上顎の舌側咬頭が、下顎の中心窩と辺縁隆線に位置します。
また、下顎においてTyp人工歯の安定咬合接触点は、頬側咬頭となり、咬合安定が得られます



咬合面から見た場合、下顎臼歯部の中心窩は、歯槽頂に位置します。

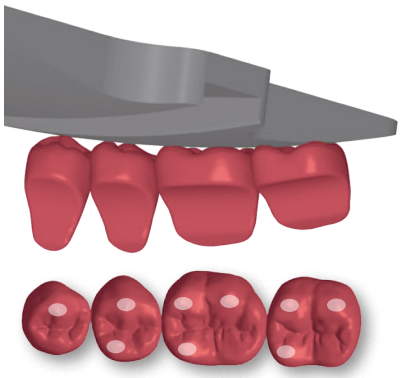
臼歯部排列時の舌側位置は、パウンドラインが基準になります。パウンドラインは、レトロモラーパッドの舌側面と下顎犬歯の近心隅角を結んだ線になります。



画像：当社Typシリーズ

Ivoclar Vivadentのセットアップテンプレートは、スピーの彎曲とウィルソンの彎曲が再現されています。それらの湾曲はバランスのとれた上下グループガイダンスにとって必要になります。

頬側咬頭と近心舌側咬頭がプレートに接触するようにしてください。



- 歯科医師と歯科技工士は、バランスを考慮した咬合形式の再現と顎間関係を保持する必要があります。
- 歯科技工所で使用される製品は、製造元の指示に従ってください。特に義歯は、過度の研削によって強度不足にならないようにする必要があります。
- 義歯床材との確実な接着を確保するために、人工歯をスチームで洗浄、その後、維持形態の付与、粗面にし、モノマーを塗布します。セルフキュア型ポリマーで完成させるには、追加の機械的維持が推奨されます。
- 表面滑沢材または義歯洗浄スプレーの塗布はお勧めしません。
- 人工歯を直接熱にさらしたり、炎に触れたりしないでください。人工歯の着色変色の要因となります。
- 研削中は、高い研削圧力による過熱を防止する必要があります。
- 研磨の際は、防塵マスクを着用し、粉塵から保護するために吸引装置を使用する必要があります。
- 義歯は通常の洗浄剤と義歯洗浄用の柔らかいブラシで洗浄できます。溶剤との接触を防ぐ必要があります。
- 重合したメタクリレートがアレルギーを引き起こす可能性があります。
- 歯冠修復用のベニアリング材（レジン・ステイン材）を使用する場合は、そのベニアリング材の使用説明書に従ってご使用ください。
- 研磨による粉塵が目に入るのを防ぐために、保護メガネを着用することをお勧めします。

一般的名称：硬質レジン歯 / 販売名：SR サクラール / 認証番号：302AGBZX00002000 / 管理医療機器

製造販売元
Ivoclar Vivadent 株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24
TEL：03-6801-1301 FAX：03-5844-3657
www.ivoclarvivadent.jp
info.japan@ivoclarvivadent.com

PR0044B01